

100年の議論が決着

カムチャツカナニワズを斜里町で発見

これまで日本には自生しないとされていた灌木、カムチャツカナニワズ *Daphne kamtschatica* Maxim. (シンチョウゲ科) を道東の斜里町で初めて発見し、このたびその内容を学術誌で発表しました（下記）。日本産の樹木が1種増えたこととなります。

早春の林床でいち早く花を咲かせる灌木にナニワズがあります。まだほかの花が咲く前に良い香りを漂わせています。このナニワズの仲間は日本海とオホーツク海を囲むように4種類が知られ、うち3種類は日本に自生することが知られていましたが、残りの一つは未確認でした。文献では他のナニワズの仲間で黄色や緑色など色のついた花をつけるのに対し、本種は白い花をつけることが大きな特徴です。また他のナニワズ類にはない長い地下茎を持っています。研究では斜里町でさまざまな特徴を調べ、ロシアのカムチャツカで調査を行って、これらの特徴が一致することを確認し、それを同定の決め手としました。これまで遥か北方にあるカムチャツカの固有種とされていたので、北海道が分布の南限になりました。

本種は1859年にロシアの植物学者マキシモヴィッチがロシア、カムチャツカ地方などの標



白い花を咲かせるカムチャツカナニワズ
高さ40～50cm、花の直径は6mmほど 斜里町にて

本に基づき新種発表しました。日本では1915年に北海道帝国大学の宮部金吾教授と三宅勉博士が、当時の樺太にこの植物があるとしてカラフトナニワズの和名を与えました。その後1935年には、東京帝国大学の中井猛之進教授が宮部らの報告した植物はマキシモヴィッチの報告とは別なものだとして、本種にカムチャツカナニワズという別な和名を与えました。以来、どのような植物か、北海道にあるか否か多くの植物研究者の間で議論され、これまで決着がつかないままでしたが、本報告で100余年ぶりにこの植物の詳細を明らかにするとともに、北海道に分布するという結論に達し、この議論に終止符を打つことができました。

（保護G 新田紀敏）

Noritoshi NITTA and Akitomo UCHIDA. 2020. *Daphne kamtschatica* (Thymelaeaceae), a New Record for Japan from Hokkaido. 植物研究雑誌 95(6):343-350

林業試験場 本場 TEL 0126-63-4164 FAX 0126-63-4166
道南支場 TEL 0138-47-1024 FAX 0138-47-1024
道東支場 TEL 0156-64-5434 FAX 0156-64-5434
道北支場 TEL 01656-7-2164 FAX 01656-7-2164
ホームページ <http://www.hro.or.jp/fri.html>
facebook <https://www.facebook.com/ringyoshi>

発行年月 令和3年1月
発行 地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
森林研究本部 林業試験場
〒079-0198 美幌市光珠内町東山